

平成 29 年度 公益社団法人日本地すべり学会東北支部 第 33 回総会議事録

開催場所：仙台市戦災復興記念館 記念ホール

開催日時：平成 29 年 4 月 24 日（月） 13 時 00 分～13 時 45 分

総会進行：渡辺副幹事長 議事進行：八木支部長

壇 上：八木支部長、金子副支部長、事務局（瀬野幹事長、島本出納責任者）

参 加 者：72 名

1. 開会

渡辺副幹事長による開会の挨拶、ならびに会場内での留意事項、本日の流れなどの事務連絡。

2. 支部長挨拶

八木支部長より総会に先立っての挨拶があった。

- ・総会への出席に関しての御礼
- ・会勢拡大と若手技術者の底上げを図るための「斜面変動研究の次世代コロキウム」を立ち上げ、活動を開始した。
- ・本日のシンポジウムでその成果を発表するが、今後も継続して活動し、新たな会員獲得に繋げて行きたい。

3. 議事

○第一号議案 平成 28 年度事業報告

- ・事務局より事業報告の説明（議案書 p1～2）。
- ・ワーキンググループ「斜面変動研究の次世代コロキウム」を計 6 回開催した。
- ・地すべり現地検討会を福島県「滝坂地すべり」において実施した。
- ・関連団体、地域貢献活動として、宮城県砂防ボランティア協会と山形県立山形中央高校へ講師を派遣した。

※第一号議案に関して質問や意見等は無く満場から承認された。

○第二号議案 平成 28 年度収支決算報告及び監査報告

- ・事務局より収支決算報告内容についての説明（議案書 p3～4）。
- ・本部仮払金は申請額（300,000 円）から前年度黒字額を差し引いた金額としている。

収益 1,906,044 円 支出 1,752,307 円 差額 153,737 円（次期繰越）

時期繰越額 1,846,062 円

- ・監事である宮城県森林整備課田中課長、三上登志男氏による監査報告（議案書 p5）。

※第二号議案に関して質問や意見等は無く満場から承認された。

○第三号議案 平成 29 年度事業計画(案)

- ・事務局より平成 29 年度事業計画(案)の説明(議案書 p6~7)。
- ・若手技術者育成を目的にワークグループ「斜面変動研究の次世代コロキウム」の継続。
- ・地すべり現地検討会を宮城県「鳴子ダム周辺」で実施する。
- ・社会貢献活動、会勢拡大活動、他学協会との連携を推進する。
- ・支部だよりの発行やホームページでの情報発信を推進する。

※第三号議案に関して質問や意見等は無く満場から承認された。

○第四号議案 平成 29 年度収支予算(案)

- ・事務局より収支予算(案)について、平成 28 年度収支決算及び実情に合わせた計画としている旨の説明(議案書 p8~9)。
- ・本部仮払金の減額や必要経費の適正額を見込んだ結果、-202,400 円の収支見込みとした。

※第四号議案に関して質問や意見等は無く満場から承認された。

○その他(議案書 p10~11)

①東北支部オブザーバーの設置

- ・運営委員に関する本部規定との整合を図るために、官公庁関係者からなる「オブザーバー」を設ける。
- ・支部活動への側方支援、情報交換と共有、発災時の技術的支援の提供や要請を目的としたリエゾン的な役割を目指す。
- ・次期役員改選に合わせ組織を整える。

②旅費規程の制定

- ・支部事業推進に必要な旅費支給に関する規定を制定する(規定案参照)。
- ・役員会、運営委員会の承認を経て、平成 29 年度内に制定する。

③支部設立 35 周年事業について

- ・記念事業として実務で使える書籍の出版を計画する(地すべりの危険度評価)。
- ・ワーキンググループまたは委員会を立ち上げ活動を進める。

※その他事項に関して質問や意見等は無く満場から承認された。

4. 報告事項

○事務局より以下についての報告があった(議案書 p12)

- ・平成 29 年度通常総会及びシンポジウムの開催予定について
- ・第 56 回研究発表会及び現地見学会(長野大会)の開催予定について
- ・代議員選挙結果について(8 名)
- ・出納責任者選出について((株)テクノ長谷 島本昌憲氏)

○平成 28・29 年度役員及び運営委員・幹事名簿、東北支部協賛会社 36 社の紹介

5. 閉会

渡辺副幹事長が総会の閉会を告げ、シンポジウム及び意見交換会について説明した。



【総会会場風景】



【支部長挨拶】



【監査報告】

公益社団法人 日本地すべり学会東北支部 平成 29 年度シンポジウム

「地すべりの素因としての地形・地質－最新の知見と若手研究成果の報告－」

【趣旨】

斜面防災分野に携わる若手技術者を対象としたワーキンググループ「斜面変動研究の次世代コロキウム」が昨年度発足した。本ワーキンググループは、当該分野の技術者・研究者にとって、地すべりおよびこれに関連する現象の理解と踏査・分析能力の向上は必須であるとの考え方の下、特に若手への技術継承、若手の研鑽の場とするために、支部活動として始めた勉強会である。今回のシンポジウムでは、そこで議論されたテーマの内、「キャップロック地すべり」や「河川の攻撃斜面」といった地すべりの素因となる地形・地質的特徴に関する研究成果を主として報告する。

地すべりの危険度評価には、地すべり地の地形・地質・水文等の特性を踏まえた機構の解明や、広域にわたる対象地域の中から不安定な斜面を抽出する技術が不可欠である。近年、地すべり機構に関する知見の蓄積や地すべり地形の空間分布の把握、あるいは GIS・DEMなどを活用した地形解析の普及が進んだことにより、地すべり地の定量的且つ広域にわたる評価が可能になってきている。地形解析手法の新たな試み、あるいは東北地方特有の（大規模地すべりの素因となり得る）地形・地質的特徴とは？などに関する事例紹介や基調講演、総合討論を通じ、斜面災害の危険度評価に向けた技術獲得を目的として、シンポジウムを開催する。

【キーワード】

地すべり 地形 地質 素因 地形解析 深層崩壊 キャップロック地すべり 攻撃斜面 若手育成

【開催概要】

日時： 平成 29 年 4 月 24 日(月) 14:00～17:30

場所： 仙台市戦災復興記念館記念ホール

参加人数：130 名

CPD： 3.5 時間（公益社団法人日本地すべり学会 認定番号：JLS045）

【講演目次】

○基調講演 (14:05～15:00)

「地すべりの素因としての地形・地質」

千木良雅弘氏（京都大学防災研究所教授 地盤災害研究部門）

○講演 ~東北地方の地すべりにおける地形地質的特徴と発生機構~

(15:00~15:40)

「キャンップロック地すべり」 山本佑介氏 (株式会社 復建技術コンサルタント) ほか

(15:40~15:50) ~ 休憩 ~

(15:50~16:15)

「河川の攻撃斜面と地すべり地形」 高堂陶子氏 (奥山ボーリング株式会社) ほか

(16:15~16:40)

「数値標高モデル (DEM) による攻撃斜面の抽出・指標化の試み」

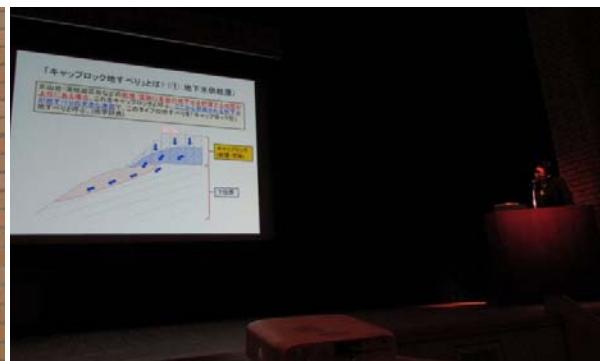
林 一成氏(奥山ボーリング株式会社)

○総合討論 (16:40~17:25) 司会(コーディネーター) : 長谷川陽一氏 渡辺修氏 久野高明氏

討論の中で八木支部長と渡辺氏話題提供があり、討論は活気に満ちたものとなった。



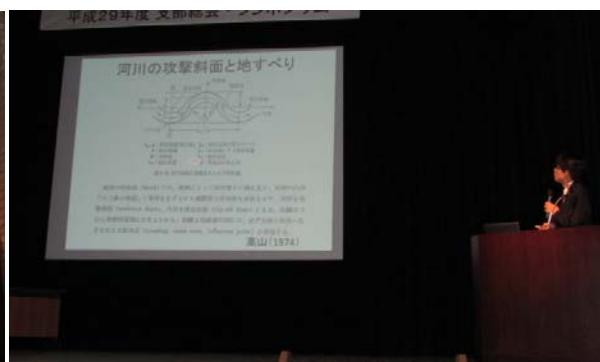
【千木良先生の基調講演】



【山本氏による講演】



【高堂氏による講演】



【林氏による講演】



【総合討論】

意見交換会

【開催概要】

会 場： アークホテル仙台青葉通り（仙台市青葉区大町 2-2-10 TEL 022-222-2111）
時 間： 18:00～20:00
参加者： 55名



【八木支部長の挨拶】



【宮城先生による乾杯】



【歓談風景】



【千木良先生の挨拶】



【檜垣先生による万歳三唱】